

みどりの杜俳句会



山の家古木桜や空へ伸び	梅澤喜久江
高枝の桜に触れて雲流る	西 ツル
スナップ豌豆籬の支柱に絡み初む	梅澤 時江
仏の座除草シートの一とこ	鈴木 啓子
今朝の雨あがり桜の五分咲よ	田村 好子
山裾の蓬摘みし日の遠し	吉田 愛子
空近き山の家咲き昇り藤	松岡 幸枝
空へ向きルピナス先まで開きけり	有賀袈裟江
山空の近き窓辺や風光る	柴崎 カヨ
清明や絶ゆることなき観音水	小宮 勉
片栗の開き雨粒葉を転ぶ	山田 良子
寺沢に丈不揃ひや水芭蕉	初雁 功子

人権シリーズ

「人権と差別」

425

今回、広報誌の寄稿にあたり、人権と差別について、いろいろ調べたり考えてみました。

人権とは、「人が人として社会で自由に考え、自由に行動し幸福に暮らせる権利であり、すべての人が、生まれながらに持っている権利」であります。

今までに何度か人権や差別についてのセミナーに参加させていただきましたが、実際はその場面に直面してみないとわからないことばかりです。

人に思いやりの言葉をかけたとしても、相手側を理解していないと差別的な発言になってしまいます。

言葉を選ぶ状況によっては、言葉をかきられないのが現実ではないでしょうか。会社や学校でも、人とのつながりがないと成り立たないと思います。

人権と差別について、一人一人が知識を持って、相手側を理解し、問題の状況に対処していかないといつになっても人権と差別の問題はなくならないのではないかと思います。

東秩父村民生・児童委員協議会 峯岸 英幸

アートの世界

【東秩父村の版画が海を渡る

4月5日〜6月1日までチェコ共和国チェスキークロムルフのPORT1560で交流展を開催】  
 チェコの世界遺産の街・チェスキー・クルムロフのPORT1560という、伝統のビールをテーマとした施設で、日本・チェコの現代作家の交流展が開催されています。東秩父の作家（倉林均、高野勉、高野浩子、吉野節子、山崎正子）の作品5点も含まれ、山崎さんの作品「越冬」は、鳥をテーマとし、大陸を超えるという意味合いから、リーフレットにも掲載されました。ここには、両国の版画技法は異なるが対立ではなく対話を求めて展覧会は開かれたという趣旨がかかれ、会場の至るところに折り鶴が置かれています。開会式は4月5日に会場で開かれ、日本からの訪問団員26名と、市長、日本大使館書記官をはじめとする150名を超える人々が集まり、日本を代表して訪問団長の高野勉があいさつをしました。開会式に併せ版画の実演も行われましたが、今後2回、日本舞踊などの日本文化を紹介するイベントも開催され、版画展を盛り上げる計画です。現地での展覧会を担当したキュレーターは「これまでの展覧会で最も盛り上がった、最高の展覧会」と話します。

